

氏名	甲斐仁美 ^{かいひとみ}
学位の種類	博士（看護学）
学位記番号	第 5 号
学位授与年月日	平成 24 年 7 月 24 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当者 看護学研究科看護学専攻
学位論文名	外来において使用できる「急性の痛み」のアセスメントシートの開発 Development of nursing record for patients with acute pain
指導教員	教授：草間朋子（主）、教授：桜井礼子（副）、教授：藤内美保（副）
論文審査委員	主査：小野美喜教授、副主査：影山隆之教授、副主査：江藤真紀准教授

論文内容の要旨

【目的】痛みを伴い医療機関を受診する患者は多く、痛みの原因が特定されていない患者の対応にあたる一般外来や救急外来では、緊急度や重症度の的確な判断、看護介入の必要性の判断を短時間の間に行わなければならない。痛みの原因が特定されている慢性疼痛に関連したガイドライン等は数多くあるが、急性の痛みをアセスメントするためのツールがないのが現状である。そこで、本研究では、外来の看護師が、急性の痛みを伴う患者に対してアセスメントの思考過程に沿って、短時間で的確な判断ができる手段としての「アセスメントシート」を作成することを目的とした。

【研究 1】シートの作成に先立ち、看護師が、急性の痛みを訴える患者に対して、どのような過程（段階）を経てアセスメントを行っているかを明らかにすることとした。12 名の患者に対応した 17 名の看護師を対象に、参加観察法により情報を入手し、質的・帰納的に分析した。その結果、【痛みの原因を想定する段階】【痛みの緊急度を判断する段階】【痛みの原因を絞り込む段階】【痛みの原因を限定する段階】【痛みの原因を確定する段階】の 5 つのステップでアセスメントが進められていることが明らかとなった。

【研究 2】研究 1 の結果を取り入れた「アセスメントシート」（ドラフト版）を作成した。ドラフト版には、バイタルサインを含むフィジカルアセスメントで入手すべき情報も盛り込んだ。ドラフト版を 61 名の患者に試用した。ドラフト版の評価を、シートの記載の状況（利用度）、試用した看護師への質問紙およびインタビューにより行った結果、試用した看護師の 8 割以上が「使いやすい」と評価した。また、シートの試用により、外来看護師としての記録の必要性（継続看護のための情報の共有化など）や独自の判断の必要性などを認識し、看護師自身の意識に変革がみられた。試用により得られた評価結果を取り入れて改良版アセスメントシートを完成させた。改良版アセスメントシートは、看護の必要性を 3 段階に分類し、身体図を盛り込み、痛みを判断する思考の流れに沿って短時間でアセスメントができるようにした。

【研究 3】改良版アセスメントシート（最終版）の有用性を検討するために、救急外来を持つ医療機関で延べ 32 名の看護師に改良版シートの使用を依頼し、使いやすさおよび看護に役立ったかどうかの視点からの評価を依頼した。その結果、対象者の約 7 割が「まあまあ使いやすい」、看護の判断について 7～8 割が「役立っている・まあまあ役立っている」と評価し、一般外来および救急外来の看護師にとってアセスメントの際の有用なシートであることが示唆された。

【結論】本研究では、一般外来および救急外来において、急性の痛みを伴う患者のアセスメントの際に用いるアセスメントシートを作成した。急性の痛みを伴う患者のアセスメントの過程に沿って時系列に判断できるようにするために、参加観察法を用いて分析した結果を取り入れ、看護師の思考過程に沿って記録し、看護の必要性の判断にまで結びつくシートとした。ドラフト版シートの作成と試用、改良版のシートとその使用・評価を経て、シートの有用性を確認した。本研究で作成したアセスメントシートが多くの外来看護師に使用されること、さらに、このシートが外来の看護記録の一つとなり、外来における看護記録の必要性を認識するきっかけになることを期待している。

Abstract

【OBJECTIVE】 The purpose of this study was to investigate the assessment for patients with acute pain, and to develop a nursing record form for outpatients with acute pain.

【STUDY 1】 Using participant observation and interviews, the process of assessment for outpatient with acute pain was clarified. The results showed 5 steps of assessment for outpatient with acute pain: “step to suppose some causes of acute pain”, “step to judge the emergency degree”, “step to narrow the range of causes of acute pain”, “step to choose some plausible causes of acute pain”, and “step to determine the specific cause of acute pain”.

【STUDY 2】 According to the results, a draft of the fill-out form for acute pain assessment was developed and proposed to used to 61 patients. A questionnaire survey and interview were also conducted to evaluate the availability of the assessment form. Over 80% of the nurses responded positively in terms of the effectiveness of the form. It was found that the assessment form could make an evaluation of situation of acute pain with accuracy and also predict the related disease in a short time by paying attention to acute pain. It was suggested that the form was also useful for the nursing staff to smoothly make decisions at each level of nursing assessment. In addition, the results showed that some nurses realized the significance of nursing records.

【STUDY 3】 According to the result, a final sheet of the fill-out form for acute pain assessment was developed, which 32 nurses completed while working at an emergency care unit for outpatients. A questionnaire survey was conducted to evaluate the availability of the assessment form. Over 70% of the nurses responded positively in terms of the effectiveness of the form. This sheet can be considered useful for the nursing staff to smoothly make decisions at each level of assessment.

【CONCLUSION】 Based on the results of participant observation and interviews, a new nursing record form for assessment of emergency outpatients with acute pain was developed and evaluated, which may be effective and useful for nurses.

論文審査の結果の要旨

本研究は「急性の痛みを持つ患者のアセスメント」に着目し、臨床看護師が急性疼痛の重症度・緊急性等をアセスメントする過程に有用なツールの作成に取り組んだものである。看護師のアセスメントの思考過程を質的および量的方法を用いて分析し、その結果をもとに救急外来および一般外来で実際に利用できる、「短時間で的確な判断ができるアセスメントシート」を作成し、使用と評価を繰り返し、その有用性を検討したものである。最終的なシートの提示に至っており、臨床看護にとって意義のある研究である。実践の科学である看護学において、本研究で行った、患者の主観的な訴えをできるだけ客観化したアセスメントシートの開発は、外来看護の質向上にも寄与した実践的な研究であり、看護学の博士論文に値すると評価する。